看　　護

1　学習指導と評価の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の工夫と改善～

昨年度の本手引では、キャリア教育の視点を踏まえ、５年一貫看護師養成課程における科目構成の明確化や普通教育と職業教育との連携による指導の充実を図るため、学習指導の改善等についての例を示してきた。本手引では、科目「成人・老人看護」と「看護臨床実習」との科目間の関連を図った老人の看護についての効果的な学習指導の例を示す。なお、年間指導計画や学習指導案の作成に当たっては、指導と評価の一体化を図るとともに、各科目の評価規準に照らし合わせて、キャリア教育の評価の視点を盛り込むことことが大切である。

(1) 科目「成人・老人看護」と「看護臨床実習」との学習内容の関連性

科目「成人・老人看護」の目標は、成人・老人の加齢、生活、保健及び疾病について理解させ、成人・老人の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てることである。また、科目「看護臨床実習」の目標は、看護に関する各科目において習得した知識と技術を臨床の場で活用し実践する経験を通して、看護観をはぐくみ、問題解決の能力を養うとともに、臨床看護を行うために必要な能力と態度を育てることである。つまり、それぞれの科目の特性を生かしながら知識と技術の統合化を図るためには、講義と実習の一体的な指導により、科目間の関連性をより深め、横断的な指導方法を確立することが大切である。

下記の表は、科目「成人・老人看護」の(7)老人の看護と福祉と科目「看護臨床実習」の(2)成人・老人看護臨床実習の関連性の深い学習内容を示したものである。

科目「成人・老人看護」と「看護臨床実習」の学習内容の関連性

「成人・老人看護」
(1)成人・老人の生活と健康
(2)慢性疾患と看護
(3)リハビリテーションと看護
(4)がんと看護
(5)手術と看護
(6)精神看護
(7)老人の看護と福祉
　ア　老人と保健・医療・福祉サービス
　イ　老人の日常生活の障害と看護
　ウ　老人の疾病と看護
(8)在宅看護

「看護臨床実習」
(1)基礎看護臨床実習
(2)成人・老人看護臨床実習
　ア　慢性疾患患者の看護
　イ　リハビリテーションと看護
　ウ　がん患者の看護
　エ　手術患者の看護
　オ　老人の看護
(3)母子看護臨床実習
(4)精神看護実習

※網掛け部分は、科目間の関連性が深い学習内容

科目「成人・老人看護」は、科目「基礎看護」及び「基礎看護医学」の学習を基礎として、成人及び老人に対する基本的な看護の方法を習得し、科目「看護臨床実習」における発展的な学習の基盤となるものである。また、科目「看護臨床実習」の中の成人・老人看護臨床実習は、実際の場面において加齢に伴う特徴を理解させ、疾病や治療の特性に応じて展開される看護及び老人の看護を応用発展させる内容であり、資格取得との関連性が高い内容である。つまり、老人の看護に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図るため、生徒の日常生活と密接に関係のある事例を通して、異なる世代にある人への関心を高めさせるなどして、２つの科目の学習内容を有機的に関連付けて指導することが必要である。

(2) 科目「成人・老人看護」と「看護臨床実習」との学習内容（中項目）の接続

科目「成人・老人看護」の内容（7）のイの老人の日常生活の障害と看護には、(ｱ)老人の看護の特徴、(ｲ)老人の日常生活の障害、(ｳ)日常生活の援助がある。これは「成人・老人看護臨床実習」の内容(2)のオの「老人の看護」の「老人の加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴についての理解を基礎とし、老人の日常生活の障害の中で多く見られる障害」という部分と深く関連している。また、特に(7)のイの(ｲ)老人の日常生活の障害は、下記の表のように関連性が深く、実習を行うための基礎的な知識となり、さらに、応用的、発展的な「老人看護臨床実習」へと連続性に配慮しながら接続していくことが重要である。

科目「成人・老人看護」と科目「看護臨床実習」の学習内容（中項目）の関連性

(7)老人の看護と福祉 ｲ 老人の日常生活の障害と看護 (ｲ) 老人の日常生活の障害		(2)成人・老人看護臨床実習 ｵ 老人の看護
【老人看護の学習内容（中項目）】		【老人実習の内容（中項目）】
・食生活と栄養		・食生活の障害に対する支援
・運動とレクリエーション		・排泄の障害に対する支援
・休息と睡眠		・運動の障害に対する支援
・排泄		・コミュニケーションの障害に対する支援
・住居環境		
・対人関係と社会的活動		

(3) 科目「看護臨床実習」を通したキャリア発達への支援

科目「看護臨床実習」は、実際に臨床の場にける体験的な実習を通して、臨床看護を行うために必要な能力と態度を育てることである。特に「成人・老人看護臨床実習」の『老人の看護』においては、老人の特徴・日常生活の障害や疾患を持つ老人に対する援助を体験することである。つまり、患者である老人を総合的に理解するためには、老人とのコミュニケーションを積極的に取り入れ、他者の多様な個性を理解するとともに、豊かな人間関係を築き上げていくことが大切である。この科目は、疾病や治療の特性に応じて展開される成人の看護など、他の内容においても「人間関係形成能力」を身に付けさせるために重要な科目である。また、看護者としての自分の役割や今後の病院選択にかかわる進路選択に結びつく「将来設計能力」を育成することが考えられる。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の工夫と改善～

今回は、科目「成人・老人看護」の中の『老人看護』の内容のみを取り上げた年間指導計画及び学習指導案を例に挙げ、育成したい諸能力の４つの領域を付加した一例を示す。

なお、下記の表は、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの開発した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」の一部である。

領域	領域説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。
意志決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。

（1）科目「成人・老人看護」の年間指導計画

ここでは、科目「成人・老人看護」を成人看護２単位、老人看護１単位の合計３単位の構成で実施することを想定している。今回は、年間指導計画のうち、『老人看護』にかかわる学習内容の観点別評価と育成したい能力を各単元に位置付けた例を示す。

教　科	看　護	科目名	成人・老人看護	単位数	３単位
目　標	成人・老人の加齢、生活、保健及び疾病について理解させ、成人・老人の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる				
到達目標に向けての具体的な取組	・老年期の身体的・精神的・社会的特徴と健康問題について幅広く理解する能力を養う。 ・高齢者の多様な価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。 ・保健・医療・福祉制度を統合的に理解する。				

月	単元名	指導項目	時数	学習内容	評価の観点 A	B	C	D	指導上の留意点及び育成したい能力
4月	(1) 成人・老人の生活と健康	ウ　老年期の生活と健康 (ｱ)身体的変化	15	・諸機能の減退 ・身体的成長の完了 ・体力の変化 ・視力・聴力の減退など	○			○	・老年期の身体的機能の低下から社会生活や役割が変化することを理解させる。 【情報活用能力】 高齢者の個性を理解し、様々な知識と情報を得る能力を身に付けさせる。
		(ｲ)精神的・社会的発達	1	・発達課題、家庭・社会における役割の変化	○				
		(ｳ)日常生活の特徴	1	・老年期の生活	○				
		(ｴ)健康状態と課題	1	・ストレスと健康障害の内容 ・疾病の予防方法		○			
		(ｵ)高齢者の性	1	・性機能と性への欲求				○	
～	(7) 老人の看護と福祉	ア　老人と保健・医療・福祉サービス (ｱ)高齢者をとりまく社会	3	・高齢者と家族	○				・高齢者をとりまく、社会の変化を把握させ、看護の意義を理解させる。 【情報活用能力】 保健・医療・福祉制度を統合的に理解し、必要な情報を選択・活用して看護援助ができる能力を身に付けさせる。 ・老化現象による高齢者の心身の特徴と日常生活の障害を理解させる。 【意思決定能力】 高齢者の価値観や個別性、身体的・精神的・社会的特徴を理解させ、ＱＯＬを重視した援助ができる能力を身に付けさせる。
		(ｲ)老人の保健・医療福祉対策の概要	4	・高齢者と社会システム				○	
		(ｳ)老人福祉サービスにおける看護の意義と役割		・関係職種との連携		○			
		イ　老人の日常生活の障害と看護 (ｱ)老人看護の特徴	2	・老年看護の基本的技術（観察、コミュニケーション） ・老年看護活動の特性（予防活動の重視など） ・老年看護活動の場（医療施設、福祉施設などの種類） ・倫理的課題（尊厳、自立と自己決定など）	○				
		(ｲ)老人の日常生活の障害	2	・食生活と栄養 ・居住環境 ・運動とレクリエーション ・休息と睡眠 ・排泄 ・対人関係と社会的活動など		○	○		
3月		(ｳ)日常生活の援助	5	・食生活の問題と看護 ・排泄障害と看護 ・骨粗鬆症と看護 ・痴呆と看護		○	○		

※評価の観点　Ａ：関心・意欲・態度、Ｂ：思考・判断、Ｃ：技能・表現、Ｄ：知識・理解
※老人看護１単位分の学習内容を標記してある。

（2）科目「成人・老人看護」の学習指導案

ここでは、科目「成人・老人看護」の指導項目の「老人の日常生活の障害・援助」の一例を示す。この時間の学習内容は、日常生活の障害の中で多く見られる食事、排泄、運動、コミュニケーション、精神等の障害や疾患を持つ老人に対する援助を体験を通して学ばせ、老人看護についての理解を深めさせることが必要である。また、この学習活動は、日常的な会話からコミュニケーション能力を育成する「人間関係形成能力」や、体験を通して高齢者の現状を受け入れ、看護師の役割を認識する「将来設計能力」を身に付けさせることが大切である。なお、この科目は、衛生看護科では、主に高齢者の特徴や加齢に伴う変化を学び、専攻科看護科では、高齢者に多い疾患や症状を学ぶこととするなど、学習内容の重複をさけ、整理・統合しながら、看護援助が考えられる能力の育成を目指し、効果的な接続を図ることが大切である。

学習指導案			
学　校　名	北海道○○高等学校	教科担当	教諭　○　○　○　○
対象学級	○○科２年○組 男子○人　女子○人　計40人	日　　時 実施場所	平成 19 年○月○日（　）曜日 第～校時　○○教室
教科・科目	看護科「成人・老人看護」○○出版	単 元 名	「老人の日常生活の障害・援助」
単元の指導計画	9～10時間／35時間中（本時は(1)の3～4時間目） (1) 老人の身体的変化を体験し、日常生活の障害と看護援助について考える。（６時間） (2) 高齢者の生活習慣と日常生活の特徴を理解し、看護援助について考える。（４時間）		
本時の目標	(1) 高齢者の身体機能の低下を、体験グッズを装着した経験に基づき、日常生活動作への影響を考察する。 (2) 高齢者の看護に携わる看護師に求められる姿勢と留意点について考察する。		

段階	指　導　内　容	学習活動	評価の観点				指導上の留意点及び育成したい能力
			A	B	C	D	
導入 20分	・高齢者の身体機能の特徴について	・視覚・聴覚の障害やコミュニケーションの障害、体力の変化などについて、高齢者体験グッズを装着した経験を基に、高齢者の身体的特徴、機能低下、日常生活上の特徴について考える。	○			○	・視覚や聴覚の障害、体力の変化などが、日常生活動作にどのように影響を及ぼすか考察させる。 【情報活用能力】 高齢者の身体的特徴や機能低下などの情報を多角的・多面的に集め、状況を判断し、理解する能力を身に付けさせる。
展開 60分	・高齢者の日常生活上の問題点と看護援助について	・グループワークを行い、食事・排泄・運動（歩行）、コミュニケーションなど、高齢者の生活機能上の問題点についてあげ、理解する。 ・グループワークを行い、生活機能上の問題点に対する援助方法を主体的に考察し、発表でする力を習得する。 ・老人看護実践の場で、看護師に求められる姿勢と態度を習得する。			○		・主体的に考え、発表できるよう誘導する。 ・生活機能上の問題点を理解させ、援助方法を幅広く考えさせる。 ・グループワークで検索し、話し合う場面づくりを設ける。 【人間関係形成能力】 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する能力を身に付けさせる。
整理 20分	・本時のまとめ	・本時を振り返り、高齢者へ看護を行う際の留意点と、老人看護の場で求められる看護師の役割について、理解する。		○			・老人看護の場で求められる看護師の姿勢や役割を理解させ、進路を考える一つの選択肢になるように配慮する。 【将来設計能力】 老人看護における看護師の果たすべき役割や意義を理解し、自己の果たす役割べき役割等の認識を深めていく能力を身に付けさせる。
※評価の観点　A関心・意欲・態度、B思考・判断、C技能・表現、D知識・理解							